

学びを深め、人や社会とつながる子の育成

～新聞活用を通して～

村上市立小川小学校

1 NIE実践のねらい

文部科学省の調査によると、新聞をよく読む児童・生徒ほど全国学力・学習状況調査で正答率が高く、新聞読読習慣と学力との間に相関関係があることが分かっている。しかし、30年度5月の調査によると、本校では、新聞を定期購読していない家庭もあり、日ごろ新聞をほとんど読まない子どもが大多数を占めていた。(図1) また、自分から地域に働きかけようとする意識も高くなかった。(図2) さらに、過去5年間の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、活用問題や記述問題を苦手としている子どもが多かった。

こうした学校課題を踏まえ、「学びを深め、人や社会とつながる子の育成」と研究主題を掲げ、NIEの実践・研究を進めてきた。

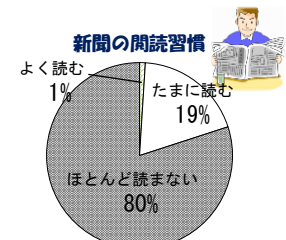


図1 H30 新聞読読習慣の調査

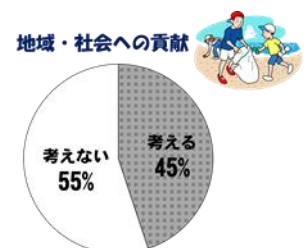


図2 H30 地域貢献の意識調査

2 本年度実践の概要

(1) 目指す子どもの姿

「学びを深め、人や社会とつながった子」の具体

○人や社会と積極的にのかかわり、

- ・学習内容に対して問いや願いをもった姿
- ・学習課題を設定し、課題解決に向け、見通しをもった姿
- ・自分の考えを見つめ直そうとする姿
- ・自己の変容や学びの価値を自覚した姿

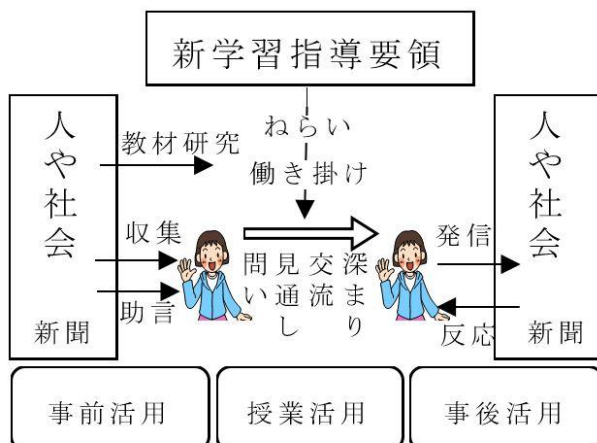


図3 人や社会とつながる子のイメージ

日々の授業を通して、学びを深め、人や社会とのつながりができた子どもは、「学びに向かう力」がさらに増し、多様な人々と協働しながら様々な変化を乗り越え、持続可能な社会の担い手となっていけると考える。

(2) 研究の内容

① 学びを深めるための指導の在り方

ア 子どもの問いや願いを引き出す教材，問題，発問の工夫

- ・既習事項や子どもの認識などとのズレを生む教材や問題を提示する。
- ・教材や問題などに不足をつくり，子どもの思考を促す。
- ・考えや根拠の違いを明らかにし，子どもの問題意識を醸成する。
- ・子どものつぶやきを広げたり問い返したりすることで課題を焦点化させる。
- ・既習事項を想起させたり，ゴールを示したりして，学習への見通しをもたせる。

イ 対話を通した深い学びを実現する指導の在り方

- ・目的とゴールを理解させて話し合いを行う。
- ・目的に応じて，全体，小グループでの交流や，自己内対話などを行う。
- ・話し合いを通して育てたい力を明確にする。
(比較する，多面的に見る，分類する，理由付けるなど)
- ・思考を促す手段として，思考ツール，付箋，ホワイトボードなどを活用する。

② 人や社会とつながるための指導の在り方

ア 新聞に触れ，新聞に親しむ環境づくり

○新聞に触れる環境づくり

- ・新聞閲覧コーナーの設置
- ・小川小学校に関係のある新聞記事の掲示
- ・昼の放送で紹介した記事の掲示
- ・投稿，投書コーナーの設置
- ・時事ネタコーナーの設置

○新聞に親しむ活動の実施

- ・N I E タイムの実施
- ・家庭を巻き込んだ新聞スクラップの実施
- ・各学級のN I E 実践の掲示
- ・スクラップコンテストへの参加，短歌・俳句・意見文などの投稿
- ・委員会での取組

イ 効果的に新聞を活用した授業実践

○目的を明確にして新聞を活用する

○提示方法を工夫して新聞を活用する

- ・児童の理解力や読解力に配慮して，記事の内容や量を決める。
- ・掲示資料の大きさや，読み仮名に配慮する。
- ・I C T 機器を活用したり，一部分を隠したりして見せ方を工夫する。

(3) 新聞活用場面

新聞を活用した授業実践を行い、新聞の有効な活用法を探ってきた。当校の授業実践をもとに、新聞活用場面を3つに分類し、以下のようにまとめた。

活 用 場 面		活 用 例 (実践年度, 学年)
A. 事前活用	NIE タイム等で活用する	・ 授業に関する記事の収集 (H30, 6年) (R元, 5・6年) ・ 授業に関する記事の読み取り (H30, 2年) (R元, 2・3年)
B. 授業活用	課題設定場面で活用する	・ 学習課題に関する写真の提示 (H30, 4年) ・ 学習課題に関する記事の提示 (H30, 2年) (R元, 2・3年) ・ 問題を含む記事やグラフ等の提示 (H30, 4・5年) (R元, 5年)
	事実を知る資料として活用する	・ カタカナ, 漢字探し等 (H30, 1・3年) (R元, 1年) ・ 写真, 地図, 図表の活用 (H30, 1・5年) (R元, 2・4・5・6年)
	考えを深める教材として活用する	・ 書き方の参考文章として提示 (H30, 6年) (R元, 5年) ・ 課題解決の教材として活用 (R元, 5年) ・ 新聞記事の比較 (R元, 6年)
C. 事後活用	学習のまとめとして活用する	・ 終末での新聞づくり (H30, 3～6年) (R元, 4年)
	発展として活用する	・ 作文や作品等の投稿 (H30, 2・6年) (R元, 6年)

当校のNIE実践のねらいに迫る上で、次の新聞活用が有効であった。

A. 事前活用

事前に、授業に関する新聞記事を収集したり読み取ったりさせておくことで、子どもたちは、教材に興味関心を抱き、授業では意欲的に取り組む姿が見られた。

B. 授業活用

課題設定場面で、学習課題に関する写真や記事を選択し提示したことで、子どもは問題意識を高め、「問い」や「願い」をもつ姿が見られた。

C. 事後活用

授業の事後に、子どもの振り返りや意見を地域や社会に向け、発信することで地域・社会への関心が高まり、他の様々な学習活動に対しても意欲的に臨む姿が見られた。

3 実践例

(1) 実践1 3年生 道徳「人の心を感じ取って」 授業者 須貝 佳世

3年生では、友だちの困り感に気付いているものの傍観的な立場をとったり、自分にとっては親切心であったとしても、その思いが強くなりすぎてかえって迷惑になってしまったりする子どもがいるクラスの実態があった。

そこで本実践では、相手の気持ちを考えて行動することの大切さに気付かせ、相手のことを思いやり進んで親切にしようとする道徳的な心情を抱かせることをねらった。

①事前活用



事前にN I Eタイムで、授業に関連する記事を活用して、目の不自由な人がどのような暮らしをしているのか、使用している用具や歩行者が通る道や公共施設などに設置されている設備などの情報を把握させた。また、実際に目の不自由な方をお招きし、話を聞いたり、白杖体験をしたりした。

②授業活用

授業の冒頭場面で、目の不自由な人が事故に遭ったことを伝える新聞記事の見出し部分を提示した。子どもたちからは「えっ」「かなしい」等といったつぶやきが聞かれ、用具や設備だけでは安心して暮らすためには十分ではないことに気付いていった。そして、「困っている人たちや悲しんでいる人たちが笑顔で生活するためにはどうしたらよいか」という問いをもつことができた。その後、相手の表情に注目させる顔マークを活用し、教材に登場する人物や友だちの心情を捉えさせた。



③本実践の成果と課題

事前活用として、「新聞から情報を収集する」、「実際に話を聞いたり、体験したりする」ことで、自分たちが暮らしている社会には、様々な困難を抱えて暮らしている人がいることを理解し、中心教材をより深く考えることにつながった。また、表情に注目させるために顔マークを活用したことは、教材に登場する人物や友だちの心情を捉えさせるのに有効であった。

しかし、社会の現実と中心教材から、自分たちの学校生活での親切を振り返らせることに課題がみられた。親切について自分事として見つめ直させるために、本時のめあてを焦点化させる必要があった。

(2) 実践2 5年生 国語「理由付けを明確にして意見文を書こう」授業者 五十嵐 静子

5年生は総合的な学習の時間に、地域の「食」（主に米作りと六斎市）について学習をしてきた。この学習と関わらせながら、『村上の「食」はいい方向に向かっているか～米作りと六斎市を通して～』というテーマで自分の考えを意見文にまとめ、書いたものを地域の人に披露し感想をもらう活動を設定した。

本実践では、意見文を書くときには、比較できる資料を使うとよいことに気付かせ、自分の意見の裏付けとなる資料について考えさせることをねらった。

①事前活用

事前に、NIEタイム等で新潟県の様々な「食」に関する新聞記事を探してスクラップし、様々な情報を収集した。このことにより、子どもたちは「食」に関しての興味関心を高めることができた。



②授業活用



本時では、自分の考えを裏付ける資料はどんな資料かを考えさせるために、地震発生時とそれから1年後の様子を載せた新聞記事の写真部分を隠して提示した。隠した部分にどんな資料が使われているかを考えさせた後、記事に使われている2枚の写真を提示したことで、子どもたちは、考えを裏付けるためには「量的な対比や変化が分かる資料」が必要であることに気付いていった。

その後、同じテーマの子ども同士でグループを組ませ、自分たちの意見文に合う資料について考えさせた。その中で、「今と昔を比べられる写真がいいね」「グラフもあるといいね」等の対比や変化を取り入れようと話し合う姿が見られた。

③事後活用

NIEタイムで集めた新聞記事やインターネットなどから集めた資料を使って意見文を書かせた。その後、完成した意見文を地域の方に見ていただき、内容や、一つ一つの資料、その使い方などのよさについて認めてもらい、子どもたちは達成感を味わった。この活動を通して地域の「食」について、自分にできることを考え、実践したいという思いをもつことができた。

④本実践の成果と課題

事前活用で、新聞記事を集め、情報を収集したことで、「食」に関する関心を深めることができた。また、「総合的な学習の時間に体験したり、調べたりして考えたことを意見文に表し、地域の方に伝える」という学習過程を組んで本実践を行ったことで、子どもに相手意識をしっかりともちながら活動させることができた。

一方で、活用した新聞記事の資料が写真であったことから、数値的な変化が分かる資料の必要性が捉えにくかった。本時のねらいにしっかりと結び付く記事を探すことの重要性が明確になった。

4 成果

(1) 3つの活用場面について

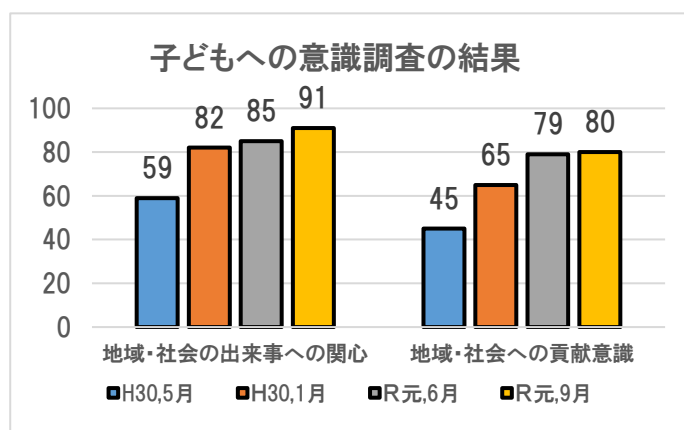
事前活用として、授業前に関連した新聞を活用すると、記事や学習内容に対しての子どもの興味・関心を高めることができた。また、国語の意見文などを書く単元では、事前活用として新聞を活用し、情報を蓄えさせることで、単元終末時に説得力のある意見文を書かせることができ、深い学びにつながった。

授業活用における、課題設定場面での新聞活用で、注目させたい部分を隠すなど工夫して記事を提示することで、子どもたちの驚きや興味を引き出し、「問い」や「願い」をもたせることにつながった。また、授業終末時に新聞を活用したことにより、学習内容と身の回りの社会とのつながりをもたせたり、次時へとつながる新たな「問い」をもたせたりすることができた。

事後活用として、授業で書いた作文などの新聞への投稿、地域に向け発信などを行うことで、子どもたちに、地域や社会とのつながりを強く感じさせることができた。さらに、新聞に投稿したものが掲載されることで、一層意欲的に様々な学習活動に取り組もうとする姿が見られた。

(2) 子どもたちの意識

研究を通しての、子どもの意識（4年以上）の変化（右図）では、「地域・社会の出来事への関心」については59%（平成30年5月）から、91%（令和元年9月）へと32%向上した。また、「地域・社会への貢献意識」についても45%（平成30年5月）から、80%（令和元年9月）へと35%向上した。さらに令和元年度の全国学力・学習状況調査の質問紙の結果では、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」（質問番号23）に対し、「当てはまる」と答えた児童は62.5%と全国平均を25.3%上回った。また、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることはありますか」（質問番号24）に対し、「当てはまる」と答えた児童は70.9%と全国平均を16.4%上回った。以上から、当校のNIEの研究・実践により、子どもたちは新聞活用を通して、人や社会とつながり、地域・社会への関心や貢献意識が高まったといえる。



5 おわりに

「主体的・対話的で深い学び」を実現させる手段として新聞を有効に活用するには、学習指導要領や教科書の内容を十分に理解した上で、具体的なねらいや手立てを講ずることが大切であった。この2年間のNIE実践・研究で得られた成果を今後も生かすとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、新聞のさらなる有効活用の在り方を探っていきたい。

（栗木 勇）